



只見町ブナセンターだより

只見町ブナセンターは、今年度も多くの方にご利用いただき、入館者がすでに2千人を超えました。これからも丁寧な対応とご案内を心掛け、何度でも来ていただけるミュージアムにしていきたいです。さて、これから秋にかけて行われる行事をご案内します。

【企画展】 只見町のブナの森 -ブナの生態から利用まで- 2015年6月27日(土)~9月27日(日)



只見町の木、ブナ。最も親しみのある木ブナはどんな特徴を持っているのでしょうか？また、只見町にはどのようなブナの森が広がるのでしょうか？ブナの森をパネルと写真、標本で紹介します。

ニセアカシアの生態と管理 【講座と自然観察会】

講師 崎尾 均 氏 (新潟大学フィールド科学教育研究センター・教授)

ニセアカシアは、甘い香りのする真っ白な花を房状につける樹木で、伊南川沿いを中心に見ることが出来ますが、日本には本来生育しない外来種です。水辺林の専門家である崎尾均氏に自然界におけるニセアカシアの脅威を講座でお話しいただき、翌日の自然観察会では、只見町の代表的な景観のひとつである河畔林と、そして、そこに侵入したニセアカシアを観察し、管理の仕方を考えます。

【ブナセンター講座】

日 時 2015年10月24日(土) 午後1時30分~午後3時

場 所 只見町ブナセンター セミナー室 ※聴講には入館料が必要です

【自然観察会】 ※事前申し込みが必要です

日 時 2015年10月25日(日) 午前9時30分~午後2時

場 所 伊南川流域 (午前9時 只見町ブナセンター集合)

参加費 1000円 (保険料、10月24・25日の入館料含む)

持ち物 飲み物、雨具、野外で歩ける靴、筆記用具、昼食など

申込・お問い合わせ 只見町ブナセンター 0241-72-8355

次回【企画展】

昔の写真から見た只見町 2015年10月～11月

只見町の施設や町民から貴重な古写真をお借りし、パネル展示をします。昭和からさかのぼって、写真が残されている明治期終盤の約80年の間、時代は大きく変わりました。ユネスコエコパークの登録から1年、只見町のありし日の姿と変化を振り返ります。

【料理教室】 ※事前申し込みが必要です

只見の秋の実りを食べる！

講師 平出 美穂子 氏（食文化研究家）

日時 2015年11月23日（月・祝）午前10時～午後1時

場所 只見町ブナセンター 休憩室

参加費 1000円（保険料、材料費、入館料含む）

定員 10名

持ち物 エプロン、三角巾、お皿・お椀・箸

申込・お問い合わせ 只見町ブナセンター 0241-72-8355

===== 活 動 報 告 =====

只見町の地面を感じる！ブナセンター講座と自然観察会

6月20、21日の2日間で、地質に関するブナセンター講座と自然観察会を行いました。地質学と火山学がご専門の山元孝広氏（産業技術総合研究所 活断層・火山研究部門）をお招きし、只見の地質について解説していただきました。

【ブナセンター講座】2015年6月20日(土)

「奥会津の地質にみる日本列島の成り立ち」

講座には26名が参加され、県外からもたくさんの方が来られていました。只見を代表する景観の1つの雪食地形は、日本海形成時代にできた窪地にたまった堆積層が削られてできたそうです。また、奥会津にも阿蘇山のようなカルデラがあります。塔のへつりや奥鬼怒がカルデラです。このことから、奥会津でも大規模な火山噴火があったことがわかります。



講師の山元孝広氏

また、産総研が公開しているウェブデータベースの地質 Navi の使い方を教えていただきました。地質 Navi では地質だけではなく活断層や火山、その土地の自然放射線量なども調べることができます。ご興味のある方は、パソコンで自分の地域の地質・岩石について調べてみてはどうでしょうか。



たくさんの方にご参加いただきました

【自然観察会】2015年6月21日(日) 「只見の地質を観察しよう！」

今回の地質の観察会には、12名の方にご参加いただきました。天候が少し心配でしたが、何とか崩れる前には観察会を無事行うことができました。

町内の4カ所を周り、各場所の地質の特徴や成り立ちについて山元孝広氏に解説をしていただきました。まずは叶津の只見川と叶津川の合流地点で、只見町が湖の底にあった時代に堆積した地質や氷河期に作られた河岸段丘を観察しました。河原で堆積した地質を観察すると、その当時に埋没した樹木の化石を見ることができました。



水害によりむき出しになった5万年前の湖跡

その後、塩ノ岐のジュラ紀の地質や恵みの森(大倉沢)で川底の岩盤を観察しました。普段何気なくみている岩肌や川底ですが、専門家の解説を通して観察することで、只見町の地質の秘密やその古い成り立ちを感じることができた観察会となりました。



泥に埋まった化石木



石を割って種類を調べる山元氏



年代の異なる溶岩が隣り合う(恵みの森)

【写真教室】 2015年7月25日(土)

猪又かじ子写真教室「ヤマユリの咲く布沢を撮る！」

柏市在住の写真家・猪又かじ子氏を講師に迎え、今年も写真教室を開催しました。13名の方にご参加いただきました。近頃、天気の良いなかった只見町でしたが、当日は天気も回復し、夏らしい日差しの下で撮影を行うことができました。

撮影時間の午前中は布沢集落を歩き、撮影ポイントごとに先生のアドバイスのもと、みなさん真剣な表情で撮影をされていました。布沢で長く撮影活動をしている先生に道行く地元の方から声がかかり、賑やかな撮影会となりました。今年はヤマユリの開花が遅く、当日に撮影することができるか心配でしたが、なんとか数輪だけ咲いている場所を見つけ撮影することができました。

午後は森林の分校ふざわの広間で、撮影してきた写真をプロジェクターで映し、先生からの講評を頂きました。同じ風景を撮影していても、光の捉え方や構図などが異なり、それぞれ個性のある写真となり、大変興味深いものでした。参加者のみなさんからは、また別の季節にも来てみたいとの声が聞かれ、写真教室と布沢の活気あふれる夏を満喫していただけたようでした。



思い思いの写真撮る参加者

【ブナセンター講座】 2015年8月1日(土)

「気候変動によって雪国の森はどのように変わってゆくのか？」



講師の中静透氏

森林生態学や生物多様性科学の専門家である中静透氏（東北大学大学院生命研究科教授）をお招きし、気候変動と森林、特にブナ林との関係についてお話していただきました。講座には42名の方々が参加されました。町内だけでなく、県内他市町村や県外からの参加者も多く大変な盛況でした。

講座では、まず日本のブナ林の特徴についてお話していただきました。日本のブナ林は、北海道の北部を除いて雪が深い地域にあり、雪が多い地域に特有の植生ということがわかります。また、同じブナ林でも太平洋側と日本海側では様子が異なります。まず、ブナ林の中でブナが占める割合が異なり、日本海側のブナ林ではブナが圧倒的に多いの

に対し、太平洋側ではいろいろな種類の木が混じります。林床に生育するササの種類も異なり、日本海側のブナ林ではチシマザサとチマキザサが多いのに対し、太平洋側ではスズタケやミヤコザサが多くなります。このようなブナ林の違いにも雪の量の違いが影響しているようです。ブナは曲げに強い材質であるため、他の種類の木よりも雪に強く、雪の多い場所でも生育できた可能性があります。また、雪の多い日本海側では、冬の間、ブナの種子が雪の下にあるためにネズミなどに食べられてしまう数が少ないことが関係しているのかもしれないということでした。実際に雪の深さとブナが森の中で占める割合を調査した結果を使用して、わかりやすく解説していただきました。

次に、このように雪と関係の深い森林が近年の気候変動によってどのような影響を受け、今後、どのように変化していくのか説明していただきました。ブナ林では、特に木の成長や実のなりに影響が出てきているようです。今後の気候変動からブナの生育に適した場所を予測した結果では、2100年頃になると日本ではブナの生育に適した場所が非常に少なくなることも教えていただきました。

今回の講座では、中静氏が調査されているデータの解説など、非常に貴重なお話を聞くことができました。講座のあとには、複数の方からの質問もあり、皆さん興味深くお話を聞かれていました。気候変動という大きなスケールのお話を聞くことによって、只見町の自然についてもまた違った見方ができたのではないのでしょうか。

【自然観察会】2015年8月2日(日) 「夏のブナ林を歩く！」



ブナ林を歩く参加者

観察会には15名の方にご参加いただきました。気温が30℃を超える中、急峻な斜面を登るところもあるので心配しておりましたが、無事に観察会を終えることが出来ました。参加者の方々は、只見沢登山口から浅草岳の鬼が面山に残る万年雪を興味深く眺めていました。サワグルミやトチノキが生育する溪畔林から高木のほとんどをブナが占めるブナ林に移り変わる中を歩きながら鈴木センター長が解説しました。途中、中静氏に解説がバトンタッチされることもあり、林床にシダとユキツバキがある場所では、その場所で発生した土砂崩れの時期が違うことなどを教えていただきました。生育する植物から、その地域の環境や成り立ちなど実際には目に見えないことも知ることができ、貴重な観察会となりました。

【報告】只見町ブナセンター収蔵資料について

只見町ブナセンターでは、只見町の自然資料や民具を収集しています。現在所蔵している資料数は、動物資料およそ 350 点、民具およそ 300 点になりました。民具に関しては、只見町ブナセンターで資料をお受けし、只見町教育委員会で調査・資料登録された後、ブナセンターで展示しています。なお、植物標本や岩石については整理が済んでおりません。これらの資料の多くは、町民の方を中心に寄贈・貸与いただいたものです。ご協力に感謝いたします。

また、只見町ブナセンターでは、図鑑や自然に関する書籍、只見町や南会津に関連する郷土資料など、およそ 850 点の蔵書があります。これらの書籍は、休憩室に配架していますので、来館時にご利用いただくことができます。なお、貸出はしておりません。お探しの図書の有無については、ブナセンターまでお問い合わせください。



図書の並ぶ休憩室

【お知らせ】只見町の自然や伝統文化についての情報をお寄せ下さい！

ブナセンターでは、只見町の自然や伝統文化を伝える物や情報を積極的に収集しています。自然を保全していくためには、護るべき自然の情報が欠かせません。貴重な植物を見つけた、見たことのない鳥がいた、自然の様子がちょっと変わったなどの情報がありましたら、ぜひご連絡ください。



寄贈いただいた資料は展示活用させていただきます

また、時代が変わり使わなくなった物、要らなくなった物も只見町の歴史や文化を伝える貴重な資料となることがあります。古い家を壊す、巨木を伐採する、かつての自然について詳しい方が

いるといった情報をお持ちの方は、ブナセンターまで連絡くださるようお願いいたします。

古い写真を探しています 只見町ブナセンターでは、10月より開催予定の企画展「昔の写真から見た只見町」で展示するための只見町を写した古い写真を探しています。写真はスキャナで読み込んだものを印刷して展示しますので、傷をつけたりすることはありません。古い写真をお持ちの方、古い写真を持っている方をご存じの方、お心当たりのある方は、ブナセンターまで一度ご連絡ください！

連絡先 只見町ブナセンター 0241-72-8355

【連載：世界の BR (Biosphere Reserves: 生物圏保存地域) No. 4】

ユネスコエコパークというのは日本国内の呼び名で、国際的には生物圏保存地域 (Biosphere Reserve: BR) といいます。現在、120 カ国に 651 の BR があります。ここでは、海外の BR をシリーズで紹介します。2014 年 6 月に只見町や南アルプスと同時に海外では 11 の地域が BR に登録されました。前回に引き続きそのうち 1 つの BR を紹介します。

Katon-Karagay (カザフスタン カトン・カラガイ)



カザフスタンの東部に広がる 163 万ヘクタールにおよぶ BR です。北端部はカツンスキー山脈の一部を含み、標高が 2000-4500 m におよび、南端部は標高が 850-3487 m のアルタイ山脈の南部まで広がります。牧草地の草花が豊富で維管束植物(シダ類と種子植物)の種数が数千種に及び、コケ類やキノコ類も豊富です。この地域の人々は主として牛や羊、鹿、シベリアジカを飼育しています。彼らは、冬

の間の家畜の食糧としての穀類(大麦やオート麦)の栽培もしています。

*この記事は以下のユネスコのホームページに基づいています。このホームページから各 BR の写真を見ることができます。もちろん、只見も載っています！

<http://www.unesco.org/new/en/media-services/multimedia/photos/mab-2014/>

【スタッフ紹介】只見町ブナセンターの新しいスタッフを紹介します！

石川 貴大 (ブナセンター指導員)

今年の 6 月から只見町ブナセンターの指導員をしております。四国の香川県から来ました。大学では植物や土壌、生態系の勉強をしました。卒業論文でブナの研究をして、只見町のブナ林、自然について興味を持ちました。只見に住み始めて、雪が多く、急峻な山に囲まれているといった特異的な環境の上に成り立った独自の文化に興味を持ち始めています。昔の話を聞いたり、冬場の籠作りに参加出来たらと思っています。香川は雪が全く降らないので冬を楽しみにしています。



石川貴大(左)です！

【只見町ブナセンター 2015 年度の後半の行事予定】

開催時期	行事名	備考
6月27日(土)～ 9月27日(日)	【企画展】 只見町のブナの森ーブナの生態から利用まで	只見町のブナ林の分布や成立の経緯とともに、ブナの生態について紹介します。
9月10日(木)	【ユネスコエコパーク講演会】 新安多島海生物圏保存地域（韓国）の自然と文化	演者：洪 善基 氏（木浦大学校島文化研究院） 会場：朝日振興センター会議室
10月10日(土)	【ユネスコエコパーク国際交流事業】 台湾原住民の伝統的、持続可能な生活文化	演者：汪 大雄 氏（台湾林業試験所）
10月24日(土) 10月25日(日)	ニセアカシアの生態と管理 【ブナセンター講座】 【自然観察会】	講師：崎尾 均 氏 外来種ニセアカシアの脅威についてお話頂き、現地研修を行います。
10月～11月	【企画展】 昔の写真からみた只見町	町の皆様にお借りした写真が、ありし日の只見町を語ります。
11月6日(金)～ 11月10日(火)	【町外展示】 「自然首都・只見」三条市 展	会場：燕三条地場産業振興センター
11月14日(土)	【ユネスコエコパーク登録一周年記念事業】 布沢若宮八幡宮における檜枝岐歌舞伎	会場：只見小学校
11月23日(月・祝)	【平出美穂子料理教室】 只見の秋の実りを食べる	講師：平出 美穂子 氏（食文化研究家） 只見町で採れる秋の実りを使った、伝統料理と創作料理を作ります。
12月～ 2016年2月	【企画展】 只見町の生物多様性を考える	よく耳にする「生物多様性」とは何でしょうか？なぜ重要なのでしょうか？
12月19日(土)	【ブナセンター講座】 自然の恵みの活かし方ー今までもユネスコエコパーク登録後もー	講師：松田 裕之 氏（横浜国立大学）
2016年3月～5月	【企画展】 春植物の生活史	雪が解け一斉に春植物が咲き始めるのが只見町の魅力です。春植物の生態に迫ります。
3月13日(日)	【ブナセンター講座】 葉と花の戦略と絶滅危惧種の保全	講師：鷲谷 いづみ 氏（中央大学）
冬季	【自然観察会】 冬のブナ林を歩く！	観察地：未定

※会場の表記がない行事は、只見町ブナセンターで実施します

【編集後記】只見は夏本番！でも、お盆を過ぎたら秋の風。猛暑でしたが、夏の終わりを感ずると少し淋しくなります。

発行 **只見町ブナセンター** 〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地



開館時間：午前9時～午後5時（最終受付は午後4時まで）

休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）

入館料：高校生以上 300円 小中学生 200円 未就学児無料（20人以上は団体割引）

電話 0241(72)8355 ホームページ <http://www.tadami-buna.jp>

FAX 0241(72)8356 電子メール info-buna@amail.plala.or.jp